

利尻島におけるシロフクロウ *Nyctea scandiaca* の保護と観察記録

小杉和樹¹⁾・山澤玉木²⁾・佐藤雅彦³⁾

¹⁾ 〒097-0401 北海道利尻郡利尻町杓形字富士見町

²⁾ 〒097-0101 北海道利尻郡利尻富士町鷺泊字栄町

³⁾ 〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Two Records of Snowy Owl from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuki KOSUGI¹⁾, Tamaki YAMAZAWA²⁾ and Masahiko SATO³⁾

¹⁾Fujimi-cho, Kutsugata, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0401 Japan

²⁾Sakaemachi, Oshidomari, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0101 Japan

³⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. An emaciated male Snowy Owl, *Nyctea scandiaca*, was rescued in southwestern Rishiri Island, northern Hokkaido on September 15, 2012. Another Snowy Owl was observed at the oshidomari-pon-yama, northern Rishiri Island, northern Hokkaido on September 29, 2012.

シロフクロウ *Nyctea scandiaca* は、北極圏のツンドラ地帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来し、北海道一円で記録されているが（日本鳥類目録編集委員会，2000），特に北海道北部での観察記録が多い（河井ほか，2003）。

これまでに利尻島では，1986年11月16日，利尻富士町鬼脇字清川の道路脇で保護されたのち釧路動物園に送られた雌成鳥の保護記録1例があったが，2012年9月15日に保護の2例目が記録されたので報告する。更に，その2週間後に野外で野生状態も観察されたのであわせて報告する。

シロフクロウが保護されたのは，2012年9月15日の午前6時半頃で，利尻島の南西部蘭泊の道路脇に設置された建設会社のプレハブ事務所の入り口前であった。建設会社社員が出勤すると，プレハブ事務所の入り口付近にシロフクロウがいて邪魔になるので，追い払ったが飛ばず，カラスに襲撃されそうな様子だったので，作業員に捕まえてもらい，段ボール箱に入れて杓形駐在所に届けた。その後，

杓形駐在所から連絡を受けた筆者の一人である小杉が引き取りに行き，筆者の一人で傷病鳥獣保護対策協力者でもある佐藤とともに外観上の異常がないか確認したが，怪我をしている様子は無いものの，風切羽及び尾羽の先端は摩耗と傷みが激しく，非常に痩せている状態であったため，佐藤の自宅へ運び，ケージで強制給餌を試みながら安静にすることとした。しかし，その夕方には，立位を保つことが出来なくなり落鳥した。

保護した個体は横班がほとんど無いことと全身が汚白色であったことから，雄の若鳥であった。落鳥直後の体重は918gで標準的な個体の70%程度しかなかった。なお，本個体は佐藤が仮標本にして利尻町立博物館に収蔵（標本番号：RTMB478）した。その際，各部位の計測を行い，全長686mm，尾長200mm，露出嘴峯長26.5mm，最大翼長375mm，跗蹠長36.0mmの計測値が得られた。この計測値を山階（1941）に記載されている計測値と比較すると，全長及び跗蹠長は比較出来なかった



Figures 1-2. *Nyctea scandiaca*. 1. A male rescued on September 15, 2012; 2. A female observed on September 29, 2012.

が、翼長及び尾長は雄の範囲のものであった。

次に、野外で野生の状態でシロフクロウを観察したのは、筆者の一人である山澤が2012年9月29日に鴛泊ポン山の遊歩道をトレッキングガイドしている時であった。午前10時頃、標高380m程の地点で、先を行く同行者から珍しい鳥がいると知らされ、見てみると針葉樹林帯の遊歩道の真ん中にシロフクロウがいた。警戒した様子で観察者の方向を見て、5mほどの距離に近づくと、遊歩道を数メートル飛び、止まっては振り返るのを何度か繰り返し、北東側に飛び去った。観察された個体は、黒い横縞が多数あることから雌で、全身の白と横縞の黒いコントラストが明確であるものの、横斑の太さから、若鳥であった。

これまで、北海道北部の島嶼におけるシロフクロウの記録は、天売島及び礼文島からもあり(寺沢, 2000; 宮本, 2010)、天売島では12月から3月、礼文島では9月から12月に記録されている。北海道大雪山系トムラウシ山周辺では夏期にも観察されている(河井ほか, 2003)ことから、北海道北部

における冬季以外の記録は大雪山系トムラウシ山周辺で観察されている個体群の漂鳥例である可能性も考えられる。

本報告にあたり、シロフクロウを保護していただいた多賀大輔氏、トレッキングガイドに同行してシロフクロウの存在に気付き、知らせてくれた岡本澄男氏に心から感謝申し上げる。

参考文献

- 河井大輔・川崎康弘・島田明英, 2003. 北海道野鳥図鑑. 亜璃西社. 札幌. 399pp.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345pp.
- 宮本誠一郎, 2010. 礼文島の野鳥. レブングル自然館. 自刊.
- 寺沢孝毅, 2000. 天売島における月別鳥類出現リスト. 144-149pp. 寺沢孝毅(編). 北海道島の野鳥. 北海道新聞社. 札幌.
- 山階芳麿, 1941. 日本の鳥類と其生態第2巻. 岩波書店. 東京. 1080pp.